

2025年3月期 決算説明資料



本資料における業績予想及び将来の予測等に関する記述は、現時点で入手された情報に基づき判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。従いまして、実際の業績は様々な要因によりこれらの業績予想とは異なることがありますことをご承知おきください。

(証券コード : 6863)
2025年5月14日

業 績 推 移

実績及び計画

24/3期

受注高 9,970百万円
(前期比▲3%)売上高 9,861百万円
(前期比+8%)営業利益 1,386百万円
(前期比+17%)

25/3期

受注高 10,465百万円
(前期比+5%)売上高 10,756百万円
(前期比+9%)営業利益 1,907百万円
(前期比+38%)

26/3期計画

受注高 10,700百万円
(前期比+2%)売上高 11,000百万円
(前期比+2%)営業利益 1,850百万円
(前期比▲3%)

重点テーマ

- ◆ 市場の拡大
- ◆ 技術の進化
- ◆ 株主還元

いかなる環境下においても成長できる企業グループの実現

事業基盤の拡大強化

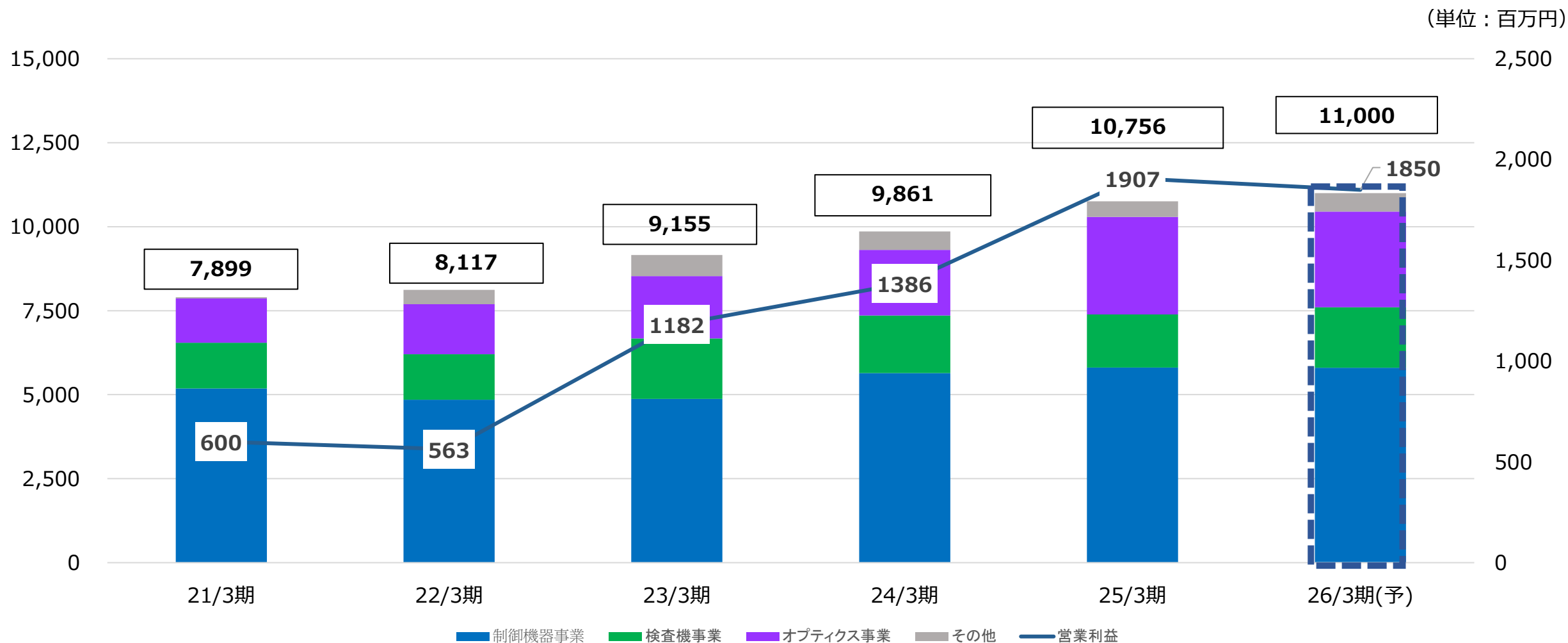
競争優位性の向上

25/3期の取組み

- ・ 子会社統合を含めた組織再編
- ・ 将来の成長を見据えたM&Aの実施
- ・ 収益力強化を意識した各種活動

連結配当性向 45%以上かつ連結自己資本配当率（DOE）2.5%以上を目標

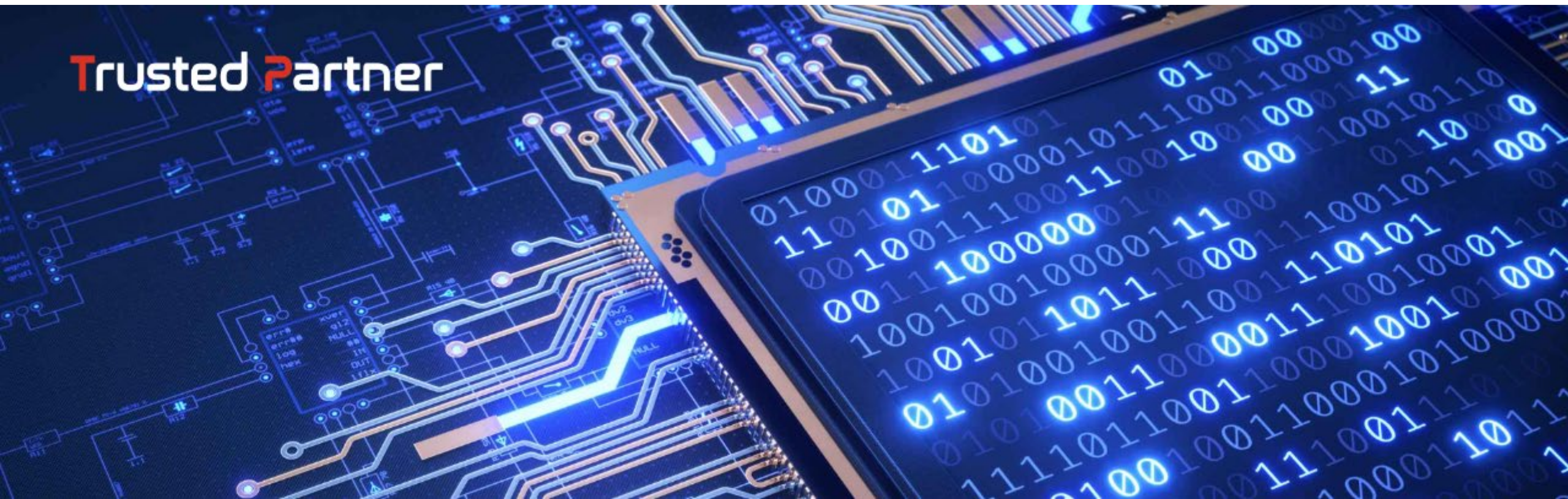
業績推移（売上高・営業利益）



※2025年3月期より従来のプロセス事業とウェブ事業を統合して制御機器事業としたことから、過去分を含めセグメントの表記を組み替えて表示しております。

1. 前期実績
2. 今期計画
3. 持続的成長に向けて

1. 前期実績 (2024/4 – 2025/3)



Trusted Partner

連結実績

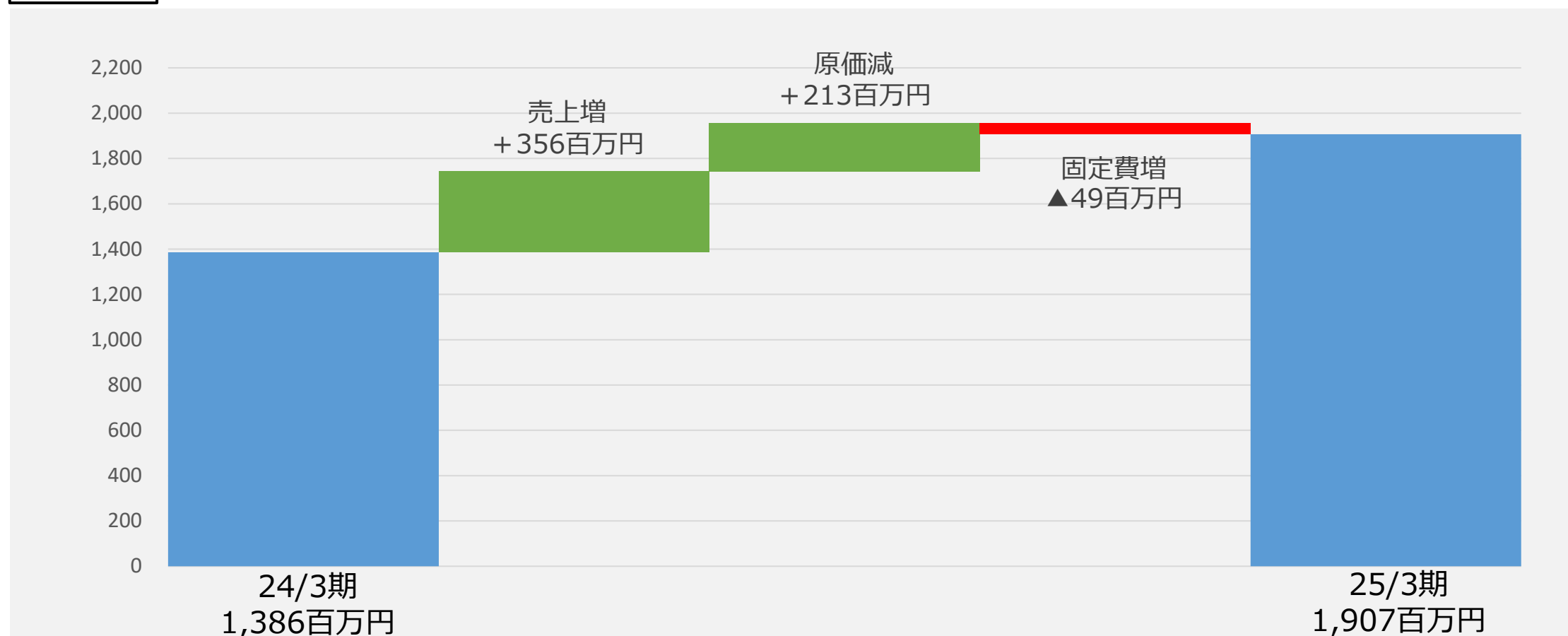
- オプティクス事業への需要が旺盛であったことに加え、収益改善努力等から大幅な増益
- 受注についても、セグメントにより強弱あるものの好調を維持
- 1989年の株式公開以来、過去最高の売上高、経常利益、当期純利益を記録

(単位：百万円)

	24/3期	25/3期		増減率	
	実績	期初計画	実績	前期比	計画比
受注高	9,970	10,600	10,465	+5%	▲1%
売上高	9,861	10,000	10,756	+9%	+8%
営業利益	1,386	1,200	1,907	+38%	+59%
営業利益率	14.1%	12.0%	17.7%	-	-
経常利益	1,470	1,270	2,028	+38%	+60%
経常利益率	14.9%	12.7%	18.9%	-	-
親会社株主に帰属する当期純利益	1,011	870	1,562	+54%	+80%
当期純利益率	10.3%	8.7%	14.5%	-	-
1株当たり当期純利益(円)	137.36	117.94	211.11	+54%	+79%
受注残高	5,454	6,054	5,163	▲5%	▲15%

営業利益増減要因

前期比



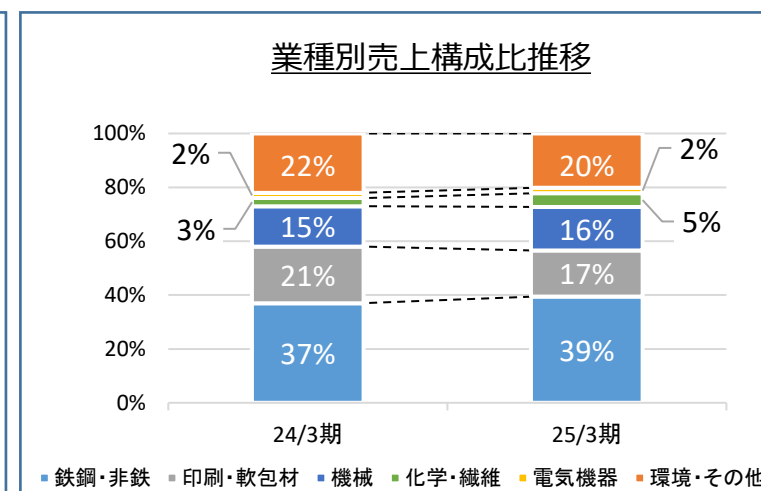
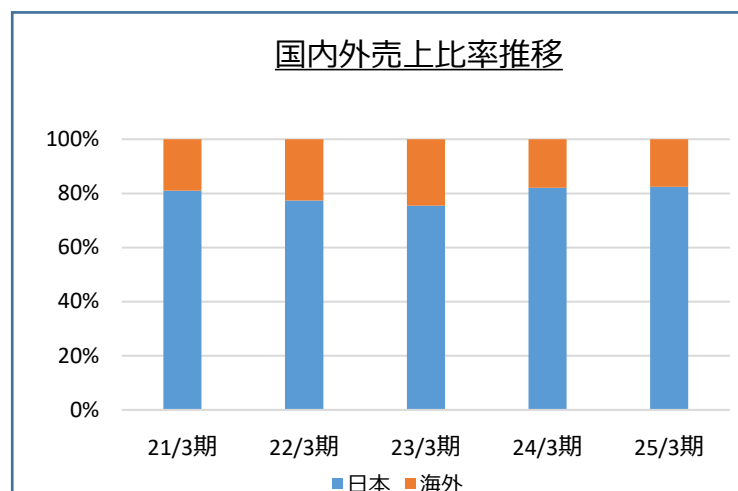
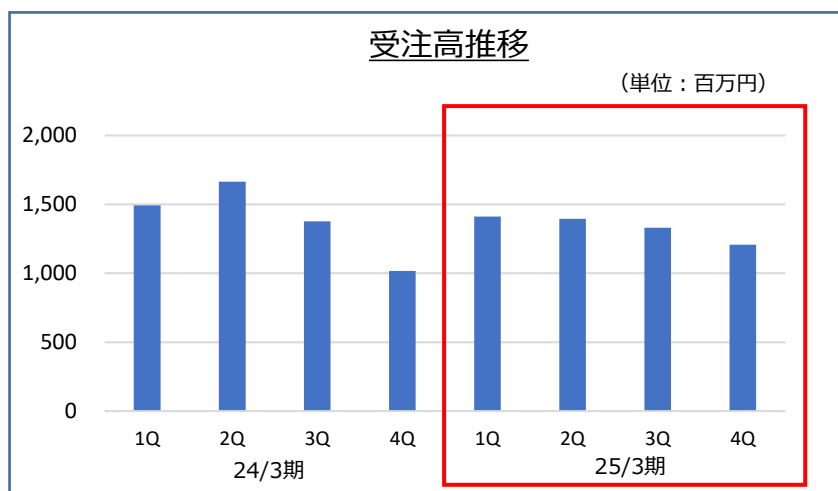
※固定費 = 販売費及び一般管理費

制御機器事業

- 高水準の受注残高を背景に鉄鋼業界の更新需要などにより売上高・利益共に前年比増
- 機能性フィルム軟包装分野は、二次電池向けなどで売上高は減少。利益向上施策奏功し利益率大幅改善

(単位：百万円)

	24/3期 実績	25/3期		増減率	
		当初計画	実績	前期比	計画比
受注高	5,513	6,250	5,343	▲3%	▲15%
売上高	5,643	5,500	5,806	+3%	+6%
セグメント利益	1,031	720	1,556	+51%	+116%
セグメント利益率	18.3%	13.1%	26.8%	-	-
受注残高	3,167	3,917	2,705	▲15%	▲31%

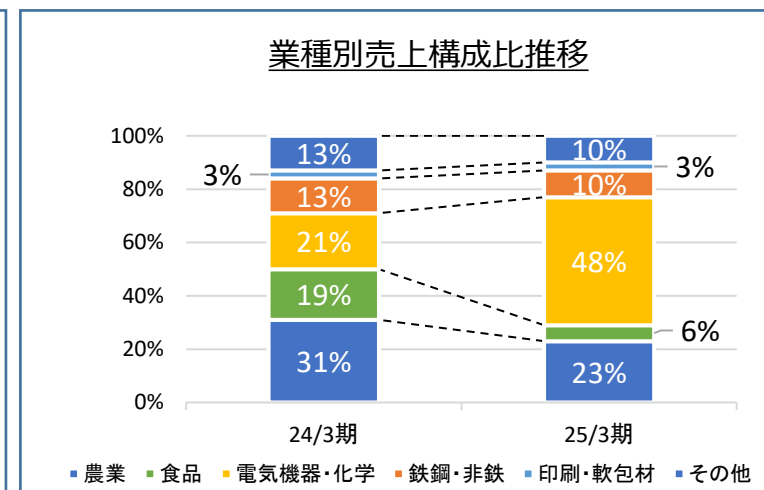
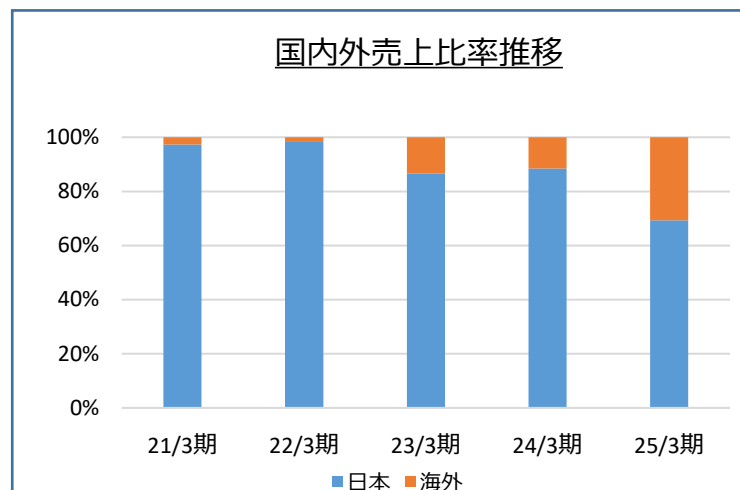
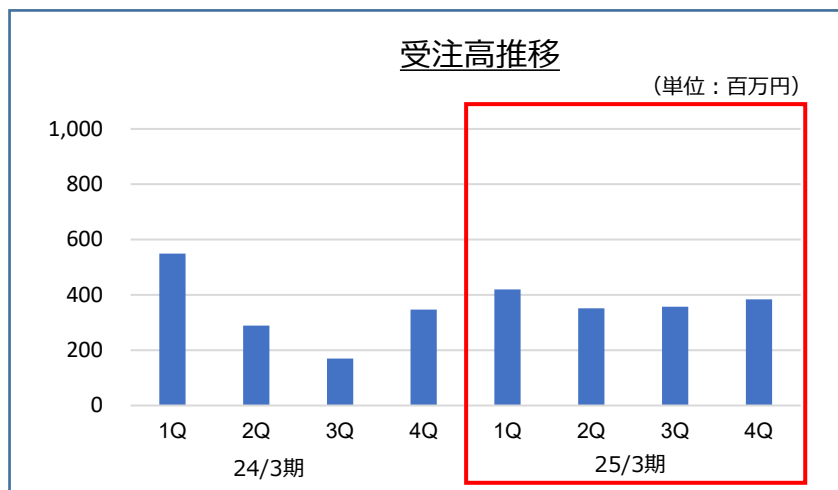


検査機事業

- 二次電池業界の設備投資停滞などから無地検査装置の受注減
- 食品検査装置は前期の大型受注少なく当期売上高に影響したものの回復の動きあり

(単位：百万円)

	24/3期 実績	25/3期		増減率	
		当初計画	実績	前期比	計画比
受注高	1,353	1,650	1,512	+12%	▲8%
売上高	1,711	1,750	1,582	▲8%	▲10%
セグメント利益	87	230	▲ 89	-	-
セグメント利益率	5.1%	13.1%	-	-	-
受注残高	664	564	594	▲11%	+5%

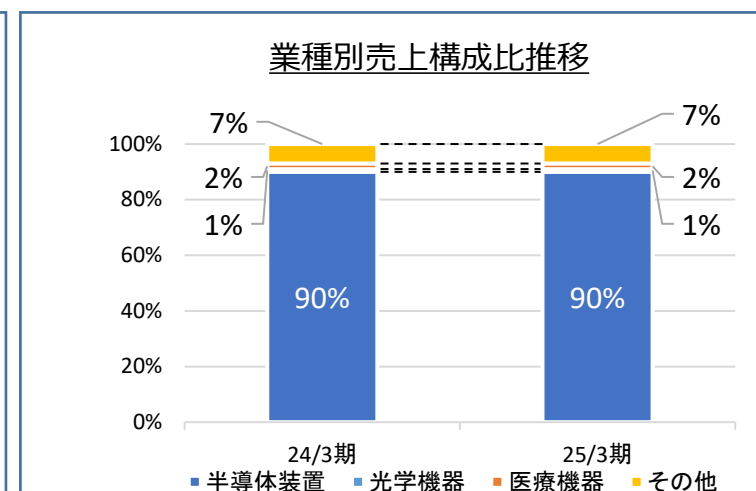
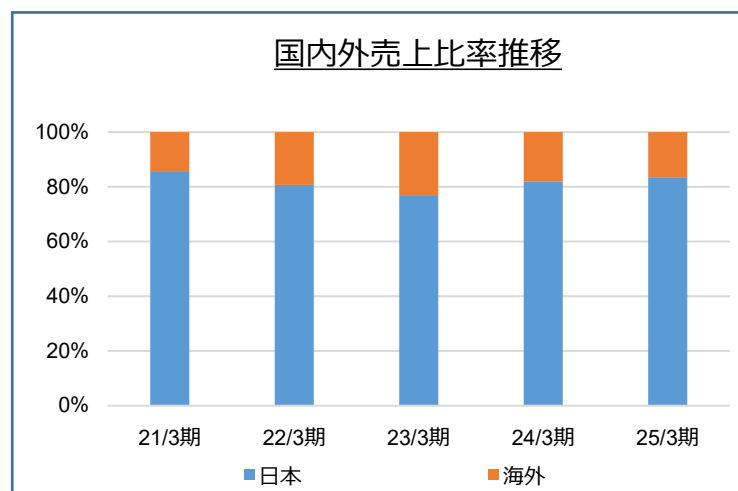
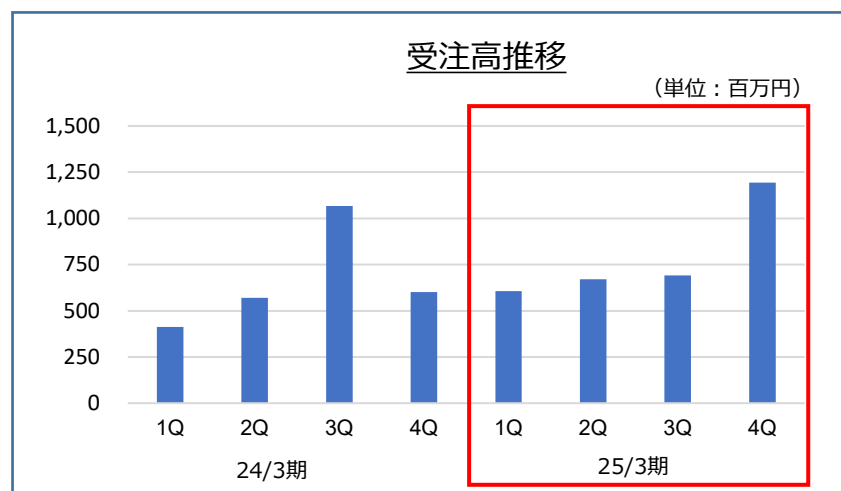


オプティクス事業

- 半導体装置業界から波長板やプリズムなどの光学部品需要強く、受注高、売上高、利益項目対前年度比大幅増
- 光学薄膜の設計・開発・製造を行う京浜光膜(株)がグループ企業に参画。人的交流を開始

(単位：百万円)

	24/3期 実績	25/3期		増減率	
		当初計画	実績	前期比	計画比
受注高	2,649	2,100	3,160	+19%	+50%
売上高	1,954	2,250	2,900	+48%	+29%
セグメント利益	807	780	1,068	+32%	+37%
セグメント利益率	41.3%	34.7%	36.8%	-	-
受注残高	1,509	1,359	1,769	+17%	+30%

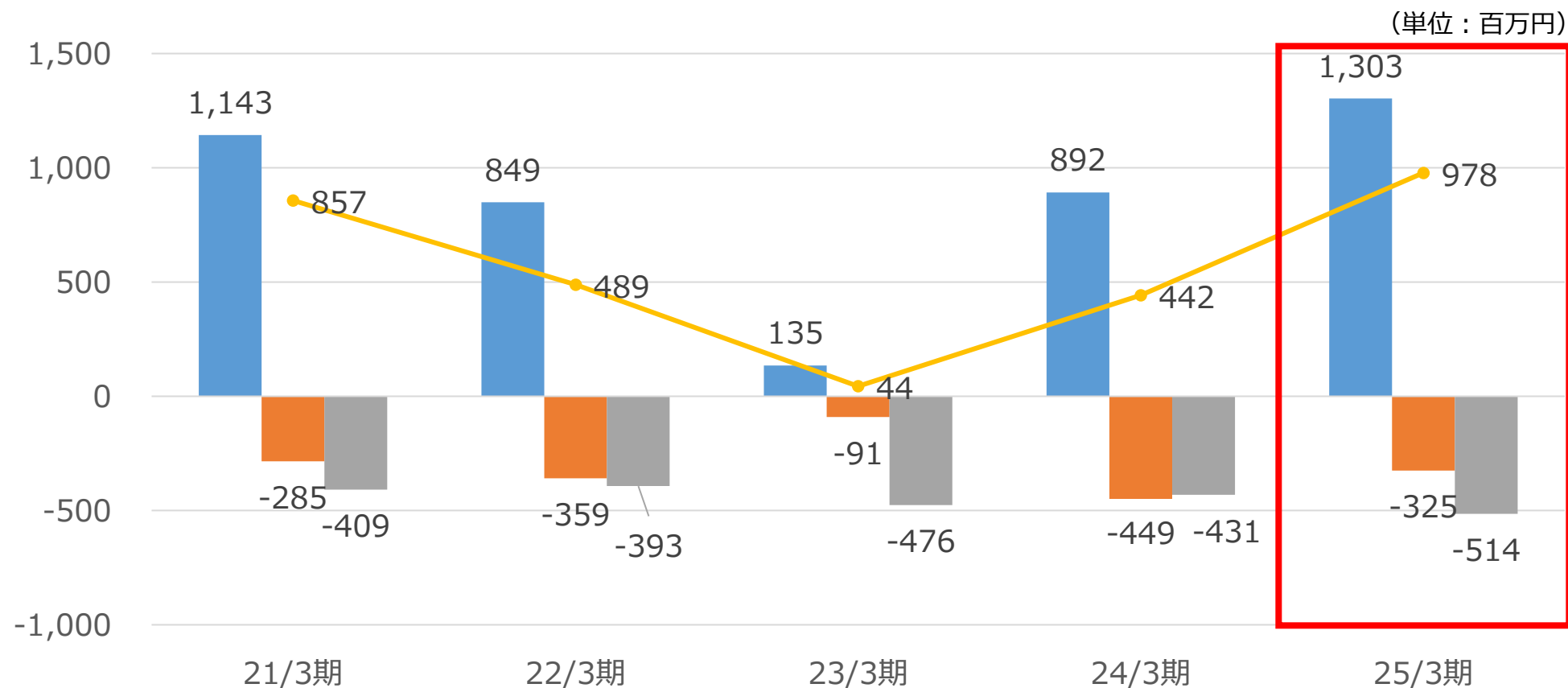


貸借対照表

(単位：百万円)

	24/3期		25/3期		前期末比
	金額	構成比	金額	構成比	増減額
現金・預金	4,354	23.4%	4,815	24.9%	+ 461
売上債権	4,176	22.5%	4,411	22.8%	+ 235
棚卸資産	3,544	19.1%	3,915	20.2%	+ 371
その他流動資産	272	1.5%	125	0.6%	▲ 147
流動資産	12,347	66.5%	13,267	68.6%	+ 920
有形固定資産	3,627	19.5%	3,970	20.5%	+ 343
無形固定資産	176	0.9%	100	0.5%	▲ 76
投資その他資産	2,422	13.0%	2,014	10.4%	▲ 408
固定資産	6,226	33.5%	6,084	31.4%	▲ 142
資産合計	18,573	100.0%	19,352	100.0%	+ 779
買入債務	576	3.1%	506	2.6%	▲ 70
その他流動負債	1,422	7.7%	1,446	7.5%	+ 24
流動負債	1,998	10.8%	1,953	10.1%	▲ 45
固定負債	749	4.0%	605	3.1%	▲ 144
負債合計	2,748	14.8%	2,558	13.2%	▲ 190
純資産合計	15,825	85.2%	16,794	86.8%	+ 969
負債・純資産合計	18,573	100.0%	19,352	100.0%	+ 779

キャッシュ・フローの状況



■ 営業活動によるキャッシュ・フロー
 ■ 投資活動によるキャッシュ・フロー
 ■ 財務活動によるキャッシュ・フロー
 ● フリー・キャッシュ・フロー

25/3期概況

営業活動によるキャッシュ・フロー：税金等調整前当期純利益（2,074百万円）

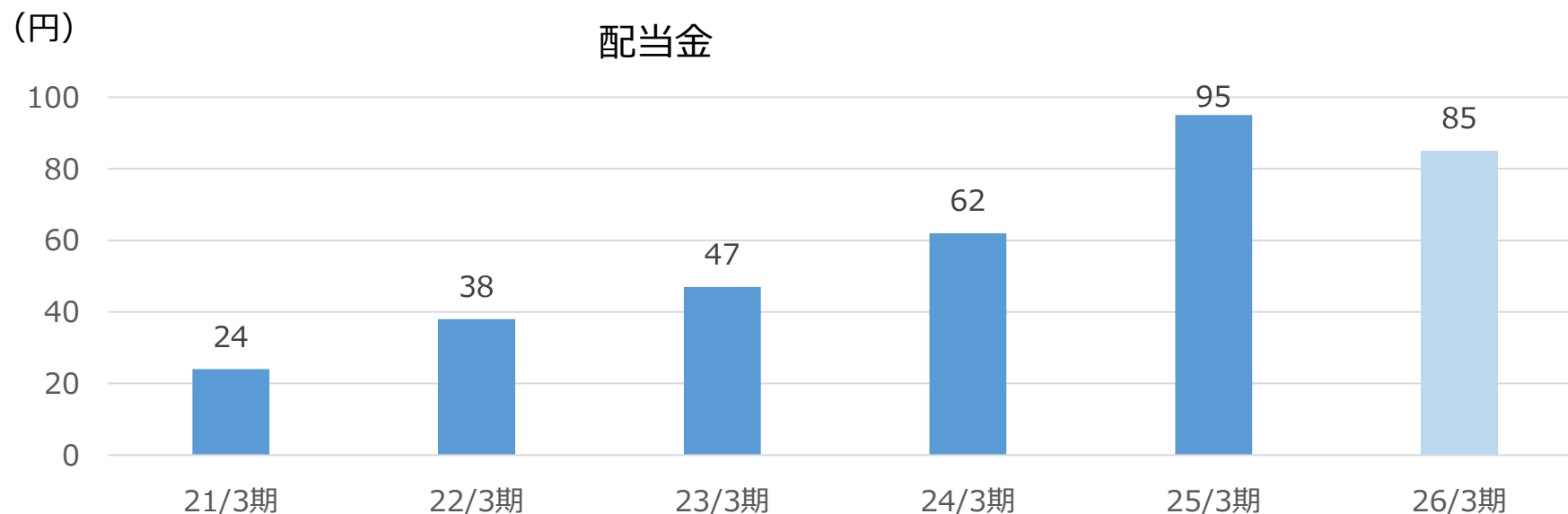
投資活動によるキャッシュ・フロー：子会社株式取得による支出（-390百万円）

財務活動によるキャッシュ・フロー：配当金の支払（-487百万円）

株主還元について

＜基本方針＞ 連結配当性向 45%以上かつ連結自己資本配当率
(DOE) 2.5%以上を目標

2025年3月期は4年連続で株式公開後最高配当額を更新



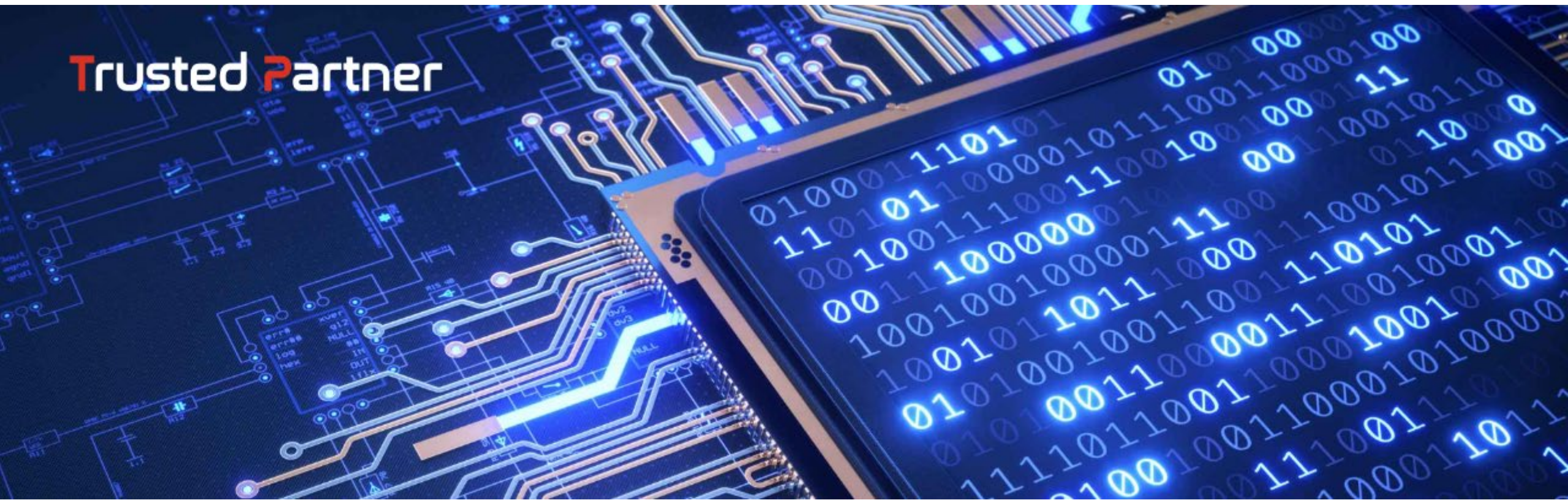
	21/3期	22/3期	23/3期	24/3期	25/3期	26/3期 (予)
1株当たり当期純利益(円)	59.06	55.41	117.40	137.36	211.11	187.52
配当金(円)	24	38	47	62	95	85
配当性向(%)	40.6	68.6	40.0	45.1	45.0	45.3
DOE	1.3%	2.0%	2.4%	3.0%	4.3%	3.7%

株主還元：自己株式の取得

資本効率の向上を図るとともに株主還元策の一環として、2025年5月14日に自己株式の取得を決定

(1)	取得対象株式の種類	普通株式
(2)	取得し得る株式の総数	300,000株（上限） （発行済株式総数（自己株式を除く）に対する割合4.0%）
(3)	株式の取得価額の総額	500,000,000円（上限）
(4)	取得期間	2025年5月15日～2025年10月31日
(5)	取得方法	株式会社東京証券取引所の自己株式立会外買付取引（ToSTNeT-3）及び立会市場における取引による買付け
(6)	その他必要な事項	その他本自己株式取得に必要な一切の事項の決定については、当社代表取締役社長又はその指名する者に一任する

2. 今期計画 (2025/4－2026/3)



NIRECO

今期計画

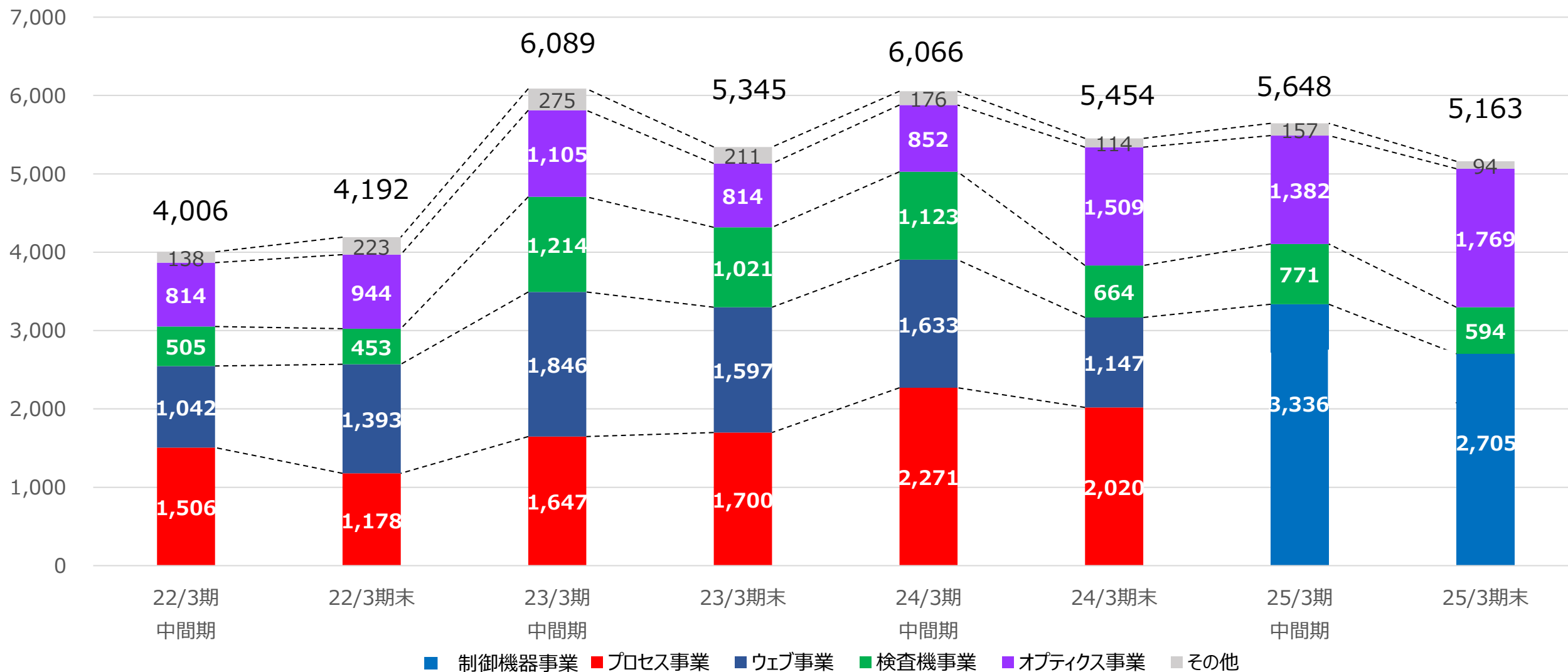
- 売上高は需要底堅く増収見込。営業利益については高水準の前期の反動減も高利益率維持
- 経常利益・当期純利益については、特別利益項目や税負担増などの影響から減益を想定
- 想定には米国の関税政策影響は織り込まず

(単位：百万円)

	25/3期 実績	26/3期 計画	増減率 実績比
受注高	10,465	10,700	+2%
売上高	10,756	11,000	+2%
営業利益	1,907	1,850	▲3%
営業利益率(%)	17.7%	16.8%	-
経常利益	2,028	1,950	▲4%
経常利益率(%)	18.9%	17.7%	-
親会社株主に帰属する当期純利益	1,562	1,390	▲11%
当期純利益率(%)	14.5%	12.6%	-
1株当たり当期純利益(円)	211.11	187.52	▲11%
受注残高	5,163	4,863	▲6%

受注残高推移

(単位：百万円)



対象市場の状況と施策：制御機器事業

鉄鋼・非鉄金属分野

市場環境：

鉄鋼メーカーは生産能力調整を図りつつ高品位鋼生産や環境負荷軽減に向けた設備投資に注力

当社の施策：

- ・ 高品位鋼向けにニーズの強い厚さ測定装置の販売活動注力
- ・ 協業関係にある独IMSグループとの連携強化を通じたグローバル展開強化

(単位：百万円)

	25/3期 実績	26/3期 計画
受注高	5,343	5,600
売上高	5,806	5,800
セグメント利益	1,556	1,210
セグメント利益率	26.8%	20.9%

機能性フィルム・軟包装分野

市場環境：

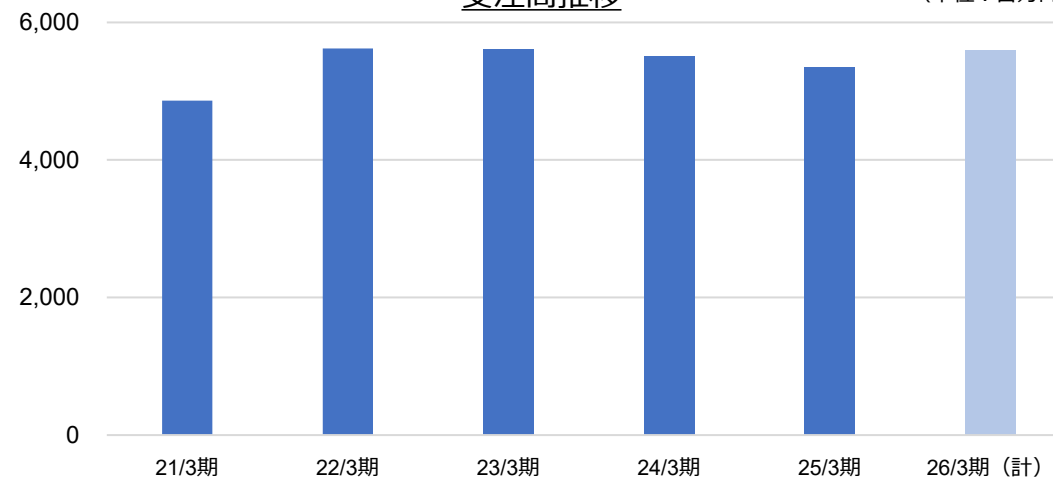
二次電池市場の停滞に伴い、同業界の設備投資減少
軟包装分野は個包装ニーズなどにより堅調

当社の施策：

- ・ 軟包装分野における検査装置の拡充
- ・ 製造コスト低減・販売活動の強化
- ・ 新たな発電方式に用いられる製造装置用製品の展開拡充

受注高推移

(単位：百万円)



対象市場の状況と施策：検査機事業

電子部品・高機能フィルム市場

市場環境：

二次電池市場の停滞に伴い、フィルム業界の設備投資減少
電池向け検査装置市場の競争環境は厳しいものの、当社にプラスの変化あり

当社の施策：

- 新たな発電方式や新方式の電池製造ラインの拡大に向けた検査装置の開発を加速
- 競争力強化に向けた技術力強化、製品開発、営業展開を実施

(単位：百万円)

	25/3期 実績	26/3期 計画
受注高	1,512	1,700
売上高	1,582	1,800
セグメント利益	▲ 89	170
セグメント利益率	-	9.4%

食品検査市場

市場環境：

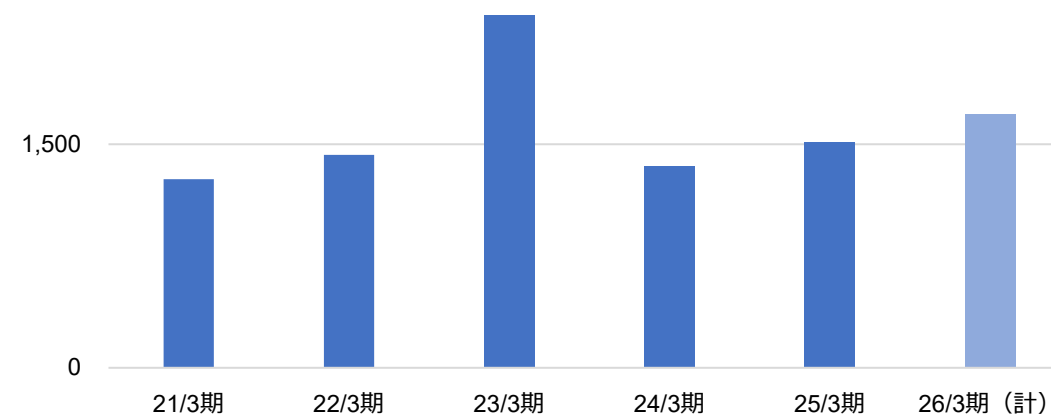
人手不足解消策としての機械化ニーズは底堅い
農作物分野に加え、各種加工食品向けの画像検査需要拡大

当社の施策：

- 食品検査装置用AI弁別機能や新規検査方式の開発加速
- 付加価値を強めた製品販売とコスト構造の見直しによる利益率の改善

受注高推移

(単位：百万円)



対象市場の状況と施策：オプティクス事業

光学部品市場

市場環境：

半導体検査装置用光学部品需要は引き続き好調
海外からの光学部品需要も拡大

当社の施策：

- ・ 需要に対応した生産性向上・設備増強
- ・ 生産力増強に向けた人材教育の強化
- ・ 光学薄膜分野でのグループ内連携強化

(単位：百万円)

	25/3期 実績	26/3期 計画
受注高	3,160	2,900
売上高	2,900	2,850
セグメント利益	1,068	1,100
セグメント利益率	36.8%	38.6%

レーザ関連製品等

市場環境：

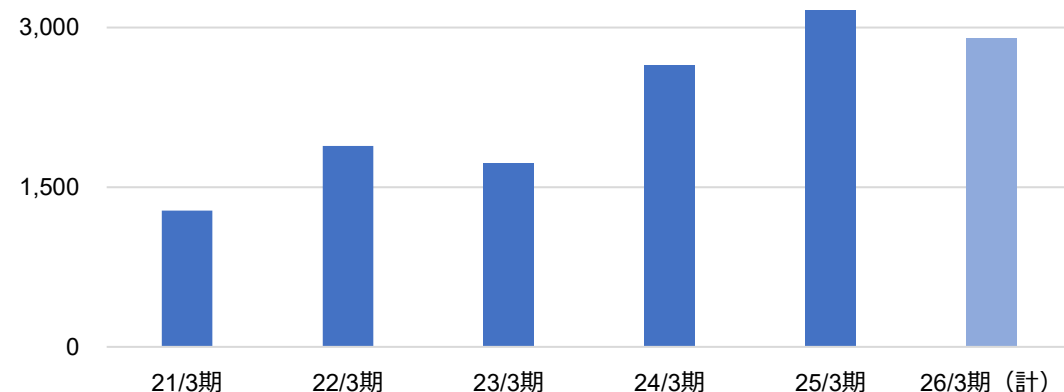
半導体検査装置用レーザの新規需要は地政学的影響もあり一段落
レーザ装置の用途は広く、新規分野で需要あり

当社の施策：

- ・ レーザ装置設計見直しによる性能向上とコスト低減
- ・ 新規分野向けの製品開発

受注高推移

(単位：百万円)



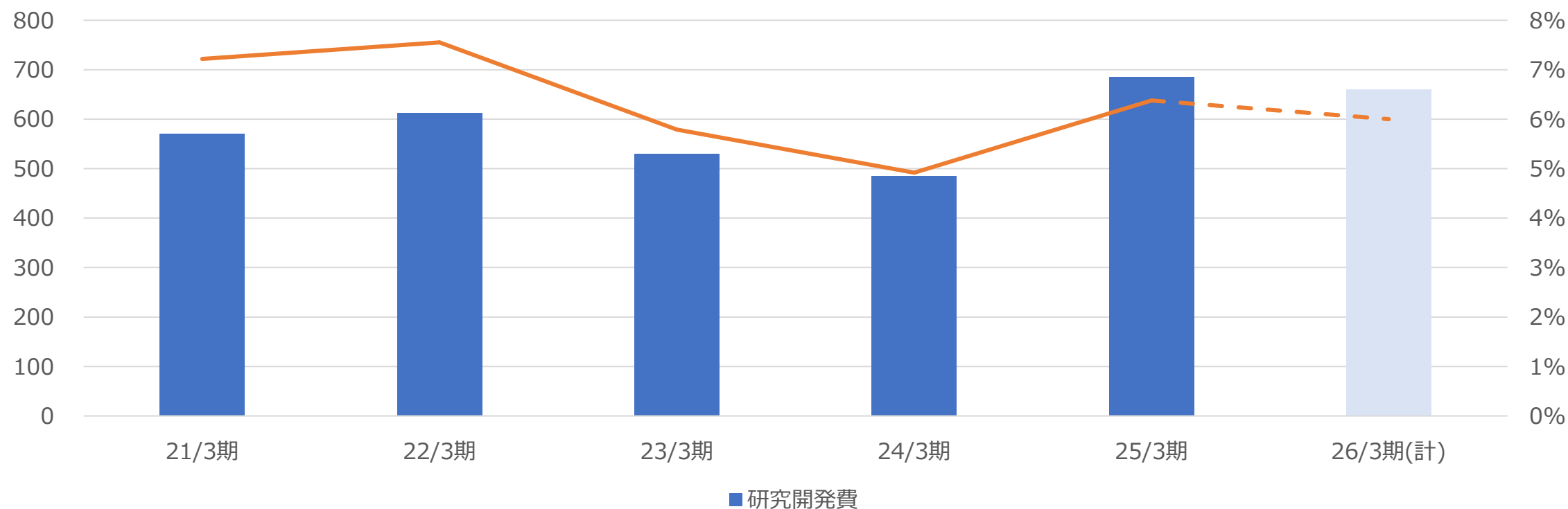
R&D

- 強みを持つ技術を活用し、新たな収益源の創出に向け、開発案件への取組みを加速

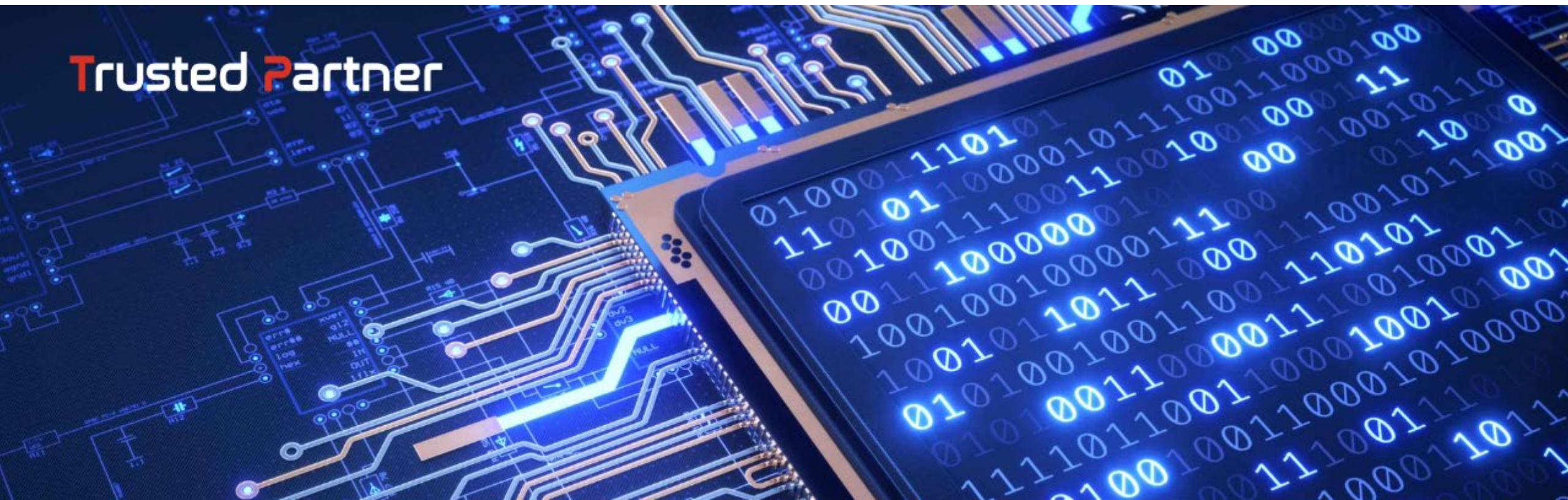
主な開発テーマ

- 次世代画像検査装置の開発
- レーザ技術による製品開発
- 光応用検査・計測装置の開発
- 提携先との技術交流を通じた開発

(単位：百万円)



3. 持続的成長に向けて



Trusted Partner

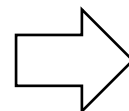
NIRECO

持続的成長に向けた成長テーマ

いかなる環境下においても成長できる企業グループの実現

市場の拡大

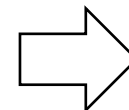
- ・ 海外展開の推進強化
- ・ 検査機事業の強化・オプティクス事業の強化
- ・ 新製品開発による新事業分野の開拓



事業基盤の拡大強化

技術の進化

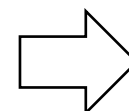
- ・ 画像解析技術の高機能化による製品展開
- ・ 光応用技術による製品開発



競争優位性の向上

経営体質の強化

- ・ 既存事業の収益改善
- ・ グループ・外部との連携強化によるシナジー最大化
- ・ 競争力強化のための人的投資、並びにインフラ投資



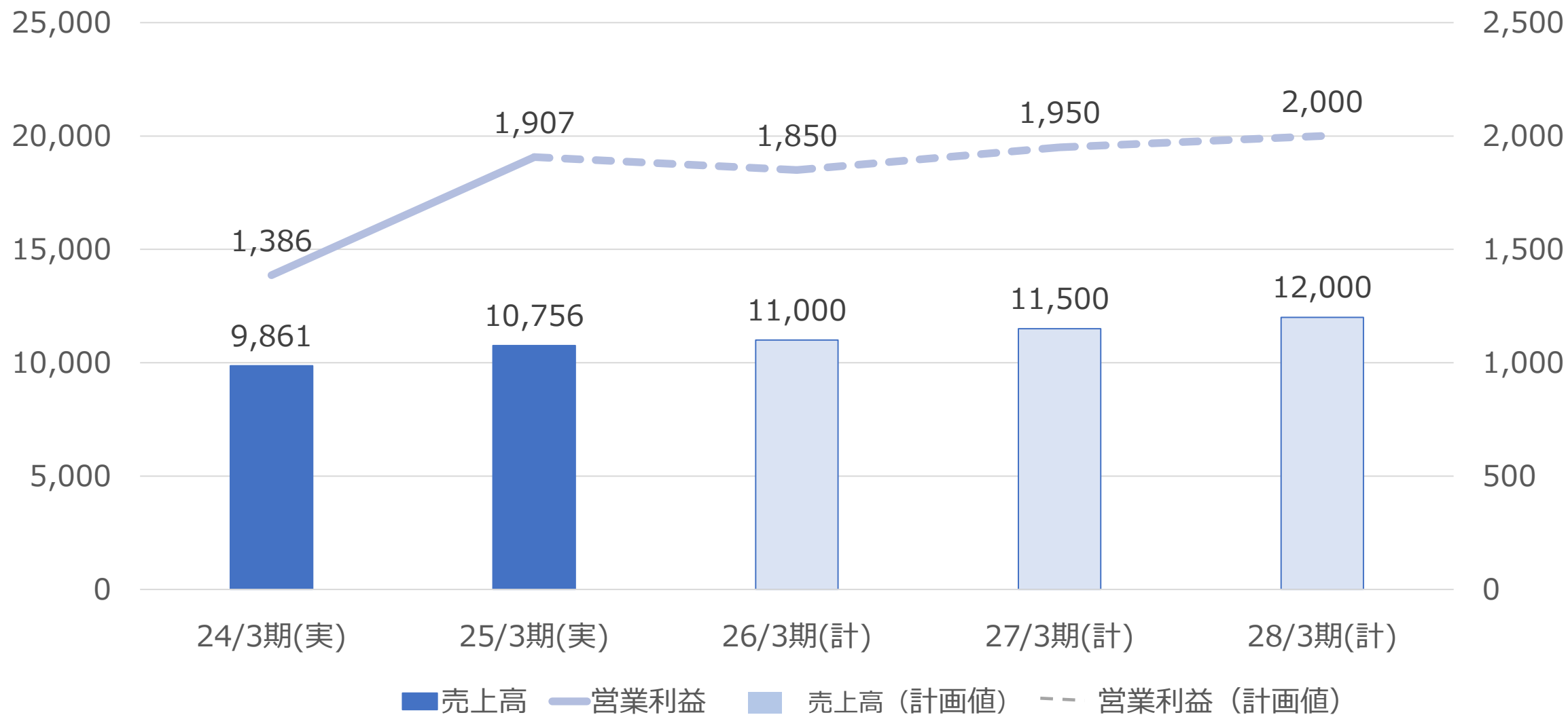
経営基盤の強化

中期基本方針

- **利益を重視した方向性の強化**
- **安定的な事業基盤を有する制御機器事業部の事業効率向上と収益性強化**
- **検査機事業、オプティクス事業の成長促進**
- **事業環境の整備と将来の成長に向けた人への投資強化**
- **M&Aを含めた非連続的な成長の模索**

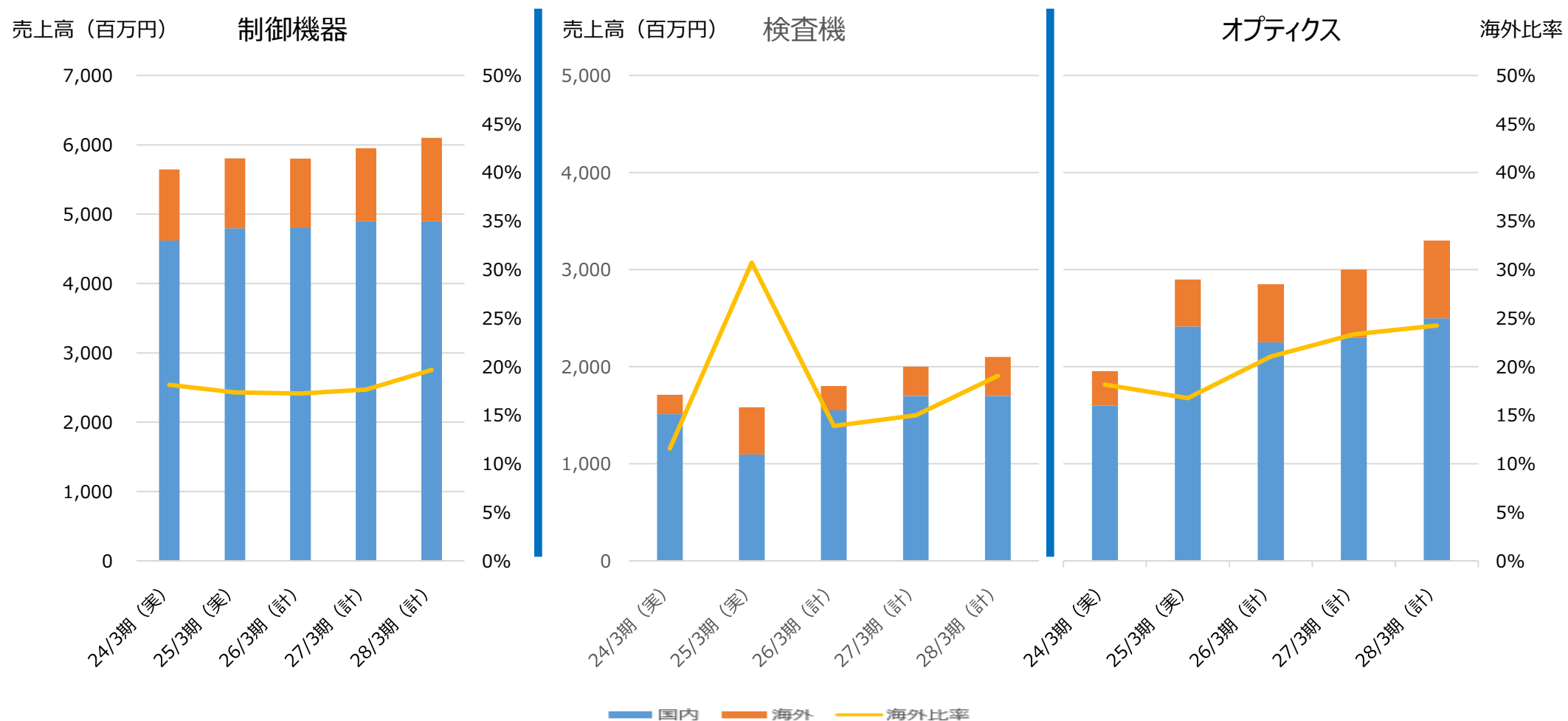
中期計画

(単位：百万円)



中期目標

(セグメント別国内外売上)



資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応

当社グループは資本コストや株価を意識したうえで、以下の方策などにより株式市場からの評価改善を目指します。

（１）事業ポートフォリオの再構築による収益性強化

- ・成長事業と位置付ける検査機事業・オプティクス事業の一層の成長促進
- ・新たな事業分野の開拓・既存事業の収益強化徹底・組織変更などによる事業効率改善
- ・事業部間・グループ間の更なるシナジー強化
- ・コストダウン・不良低減・適切な売価設定などによる収益強化策の継続
- ・効率的なネット販売活動の推進・外部との提携強化による海外販売の強化

（２）利益還元方針の見直し

- ・2024年２月に利益還元方針を変更
連結配当性向40%以上かつ連結自己資本配当率（DOE）2 %以上 ⇒ 連結配当性向45%以上かつDOE2.5%以上
- ・自己株式取得による資本効率向上と株主還元施策を2025年5月に決定

（３）投資及び資本政策

- ・成長事業・新製品開発への投資強化
- ・デジタル投資の強化による効率化推進
- ・M & Aの継続推進 ⇒ 2024年10月に京浜光膜（株）をグループ化。今後も継続検討

（４）ＩＲ、ＰＲ活動の強化

- ・より積極的なＩＲ、ＰＲ活動による株式市場への訴求強化
- ・一般投資家にも解りやすい事業内容説明と成長ストーリーの訴求
- ・非財務情報を含めた株主・投資家とのコミュニケーション機会の充実

NIRECO

参考資料

会社概要

会社名	株式会社ニレコ
代表取締役社長	中杉 真一
本社所在地	東京都八王子市石川町2951-4
設立	1950（昭和25）年11月
上場市場	東京証券取引所スタンダード
資本金	3,094百万円*
連結従業員数	466名*
連結売上高	10,756百万円*

* 2025年3月期連結

沿革

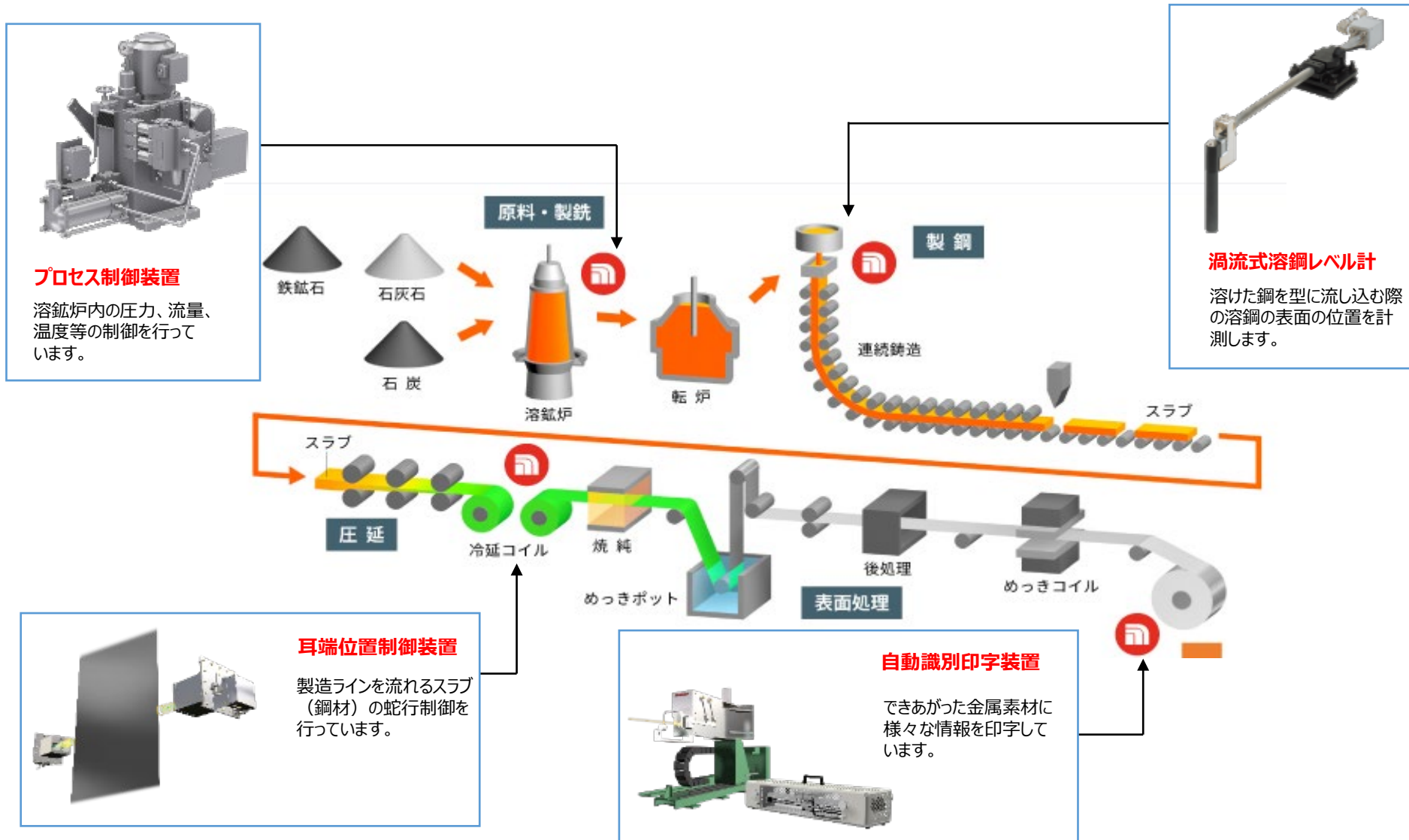
- 1950年 : 東京都中央区に日本レギュレーター株式会社を設立
- 1979年 : 東京都八王子市に本店を移転
- 1984年 : 商号を「株式会社ニレコ」に変更
- 1989年 : 日本証券業協会に株式を店頭公開
- 1990年 : ミスミ電子株式会社（現ミヨタ精密株式会社）を子会社化
- 1998年 : 仁力克股份有限公司を子会社化（台湾）
- 2003年 : 尼利可自動控制机器（上海）有限公司を設立（中国）
- 2004年 : JASDAQ証券取引所に上場
- 2013年 : 東京証券取引所JASDAQ（スタンダード）上場に移行
- 2014年 : Nireco Process Korea Co., Ltd.を設立（韓国）
- 2018年 : Nireco Process Korea Co., Ltd.が土地・建物取得し生産体制整備
- 2019年 : 株式会社光学技研を子会社化
- 2021年 : 西武電機株式会社を子会社化
- 2022年 : 東京証券取引所の市場再編に伴い、スタンダード市場へ移行
- 2023年 : Nireco Process Korea Co., Ltd.が社名をNireco Korea Corporationへ変更
- 2024年 : ミヨタ精密株式会社を吸収合併
京浜光膜株式会社を子会社化

「技術と信頼」

われわれは、制御、計測、検査の技術を活かした製品ときめ細かいサービスの提供により、お客様から厚い信頼を獲得し、良きパートナーとして共に成長します。さらに、パートナーシップにより生み出した価値を広く社会に応用することで、豊かで持続可能な社会の実現に貢献していきます。

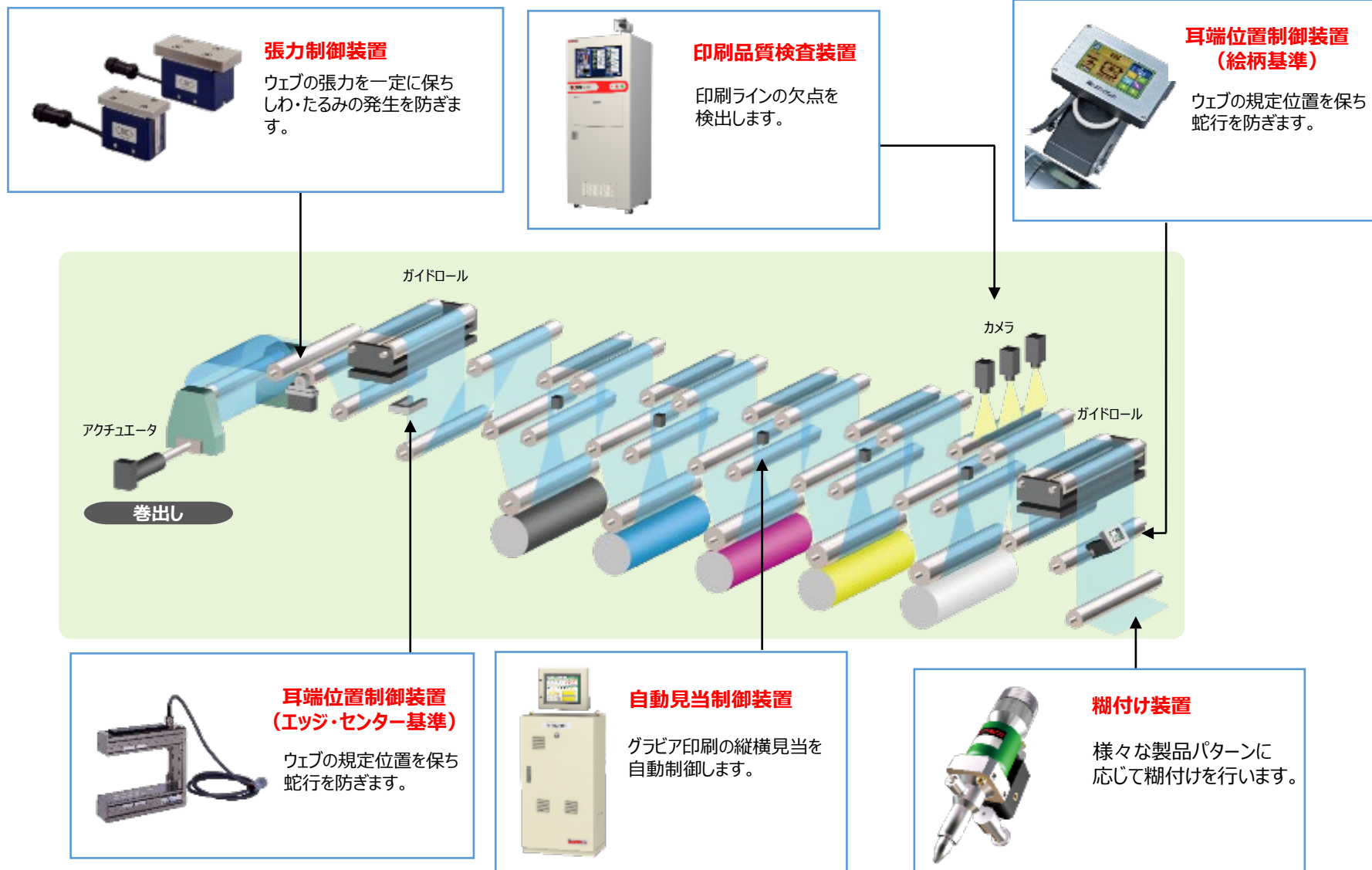
制御機器事業：鉄鋼・非鉄金属分野

鉄鋼をはじめ、金属、ガス、化学工業等あらゆる工業における自動制御装置を扱う事業です。



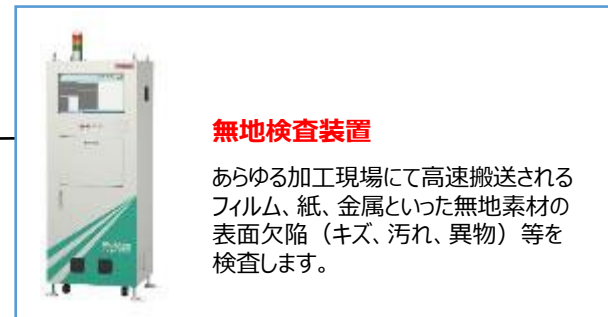
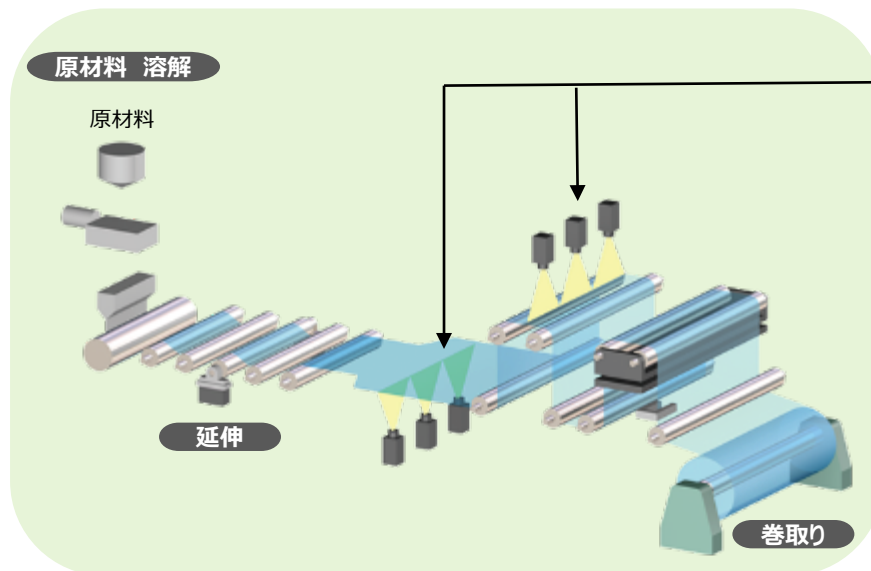
制御機器事業：フィルム・印刷・紙分野

主に紙・フィルム・箔等薄いシート状素材（＝ウェブ）の位置制御装置等を扱う事業です。



検査機事業

長年に渡り培ってきた画像処理技術をベースに、農産物から電子部材に至るまで幅広い製品の品質検査装置を扱う事業です。



オプティクス事業

長年に渡り培ってきたレーザ関連製品やグループ会社の株式会社光学技研が取り扱う高度な技術を必要とする特殊な光学部品、京浜光膜株式会社で製造する先端分野向け光学薄膜製品を扱う事業です。

➤ 主要用途：

- 半導体検査装置
- 光学機器
- 医療機器

光学部品



非線形光学結晶

深紫外光への波長変換に適したCLBO素子を提供し、先端半導体検査装置等で用いられています。
独自の加工技術で、世界の複数の半導体検査装置メーカーから高い評価を受けています。

偏光子

特定の光を取り出すことのできる偏光子を、学術研究分野、光学機器分野、レーザ用途等、幅広く提供しています。



レーザ関連製品



深紫外ファイバーレーザ Cygnus

深紫外ファイバーレーザを用いたマスク検査を実現します。
定期的なメンテナンスは年1回と安定的な性能を有しています。

光学薄膜



光学フィルター、ミラー、AR、多層膜

医療機器やレーザ機器、光通信機器といった多様な先端分野に向けて、高品質な製品を提供し、試作開発も請け負っています。

ニレコグループ企業 国内

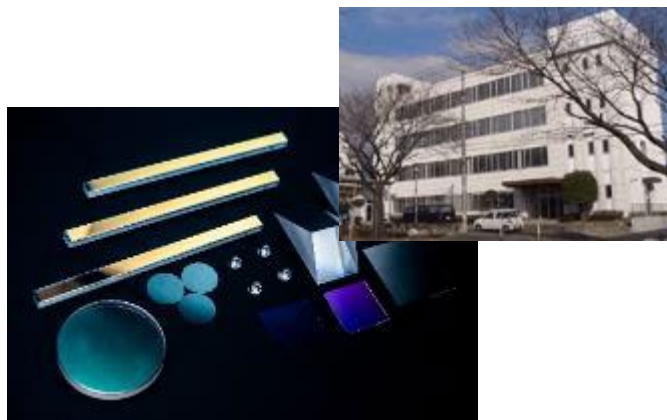
セグメント オプティクス



オプティクス事業製品の開発、製造及び販売を行っています。
DUVレーザ装置の波長変換に利用されるCLBO結晶を、商用レベルで加工できるトップクラスの技術力を有します。



光学薄膜加工技術によるフィルター、ミラーの開発、製造及び販売を行っています。
広範な領域へ製品を提供し、試作開発も請け負います。



セグメント その他



電子機器、情報機器、各種機器の開発および製造を行っています。基板の設計から実装・試験までを請け負い、宇宙産業に参画する程の技術力を有します。



ニレコグループ企業 国外



尼利可自动控制机器（上海）有限公司 (ニレコ上海)

中国の上海市内にある当社子会社です。
当社製品全般にわたり製造、販売及び保守
サービスを行っています。



仁力克股份有限公司 (ニレコ台湾)

台湾の新北市内にある当社子会社です。
当社フィルム・印刷分野及び検査機事業
の製品を中心としてアジア地区における製
造及び販売を行っています。



Nireco Korea Corporation (NIK)

韓国の慶州市にある当社子会社です。
当社鉄鋼・非鉄分野の製品の製造、
販売及び保守サービスや検査装置の
販売を行っています。

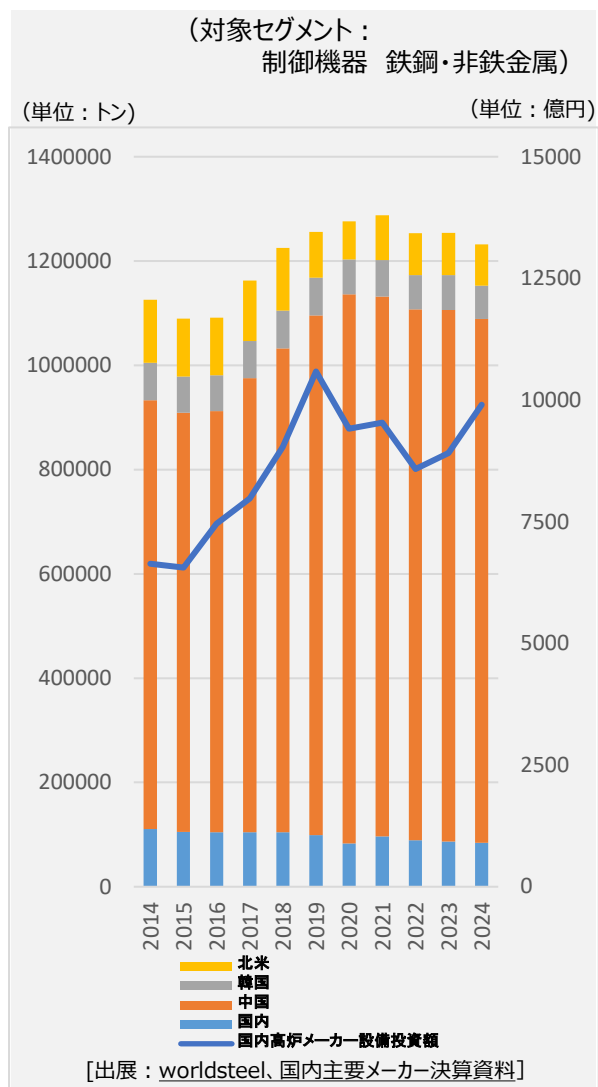


株式会社ニレコ

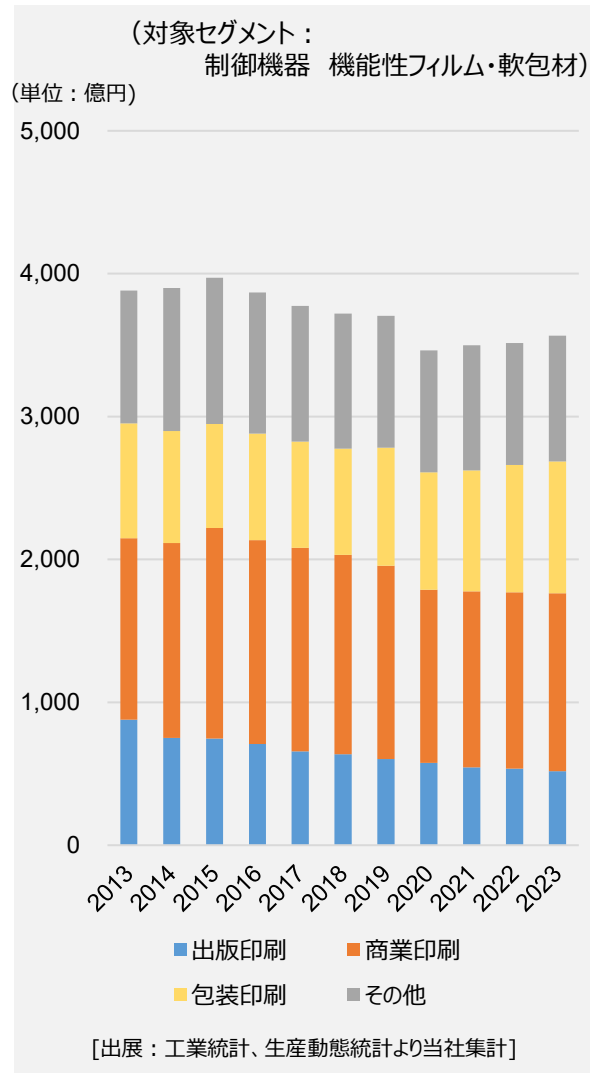


各事業市場動向

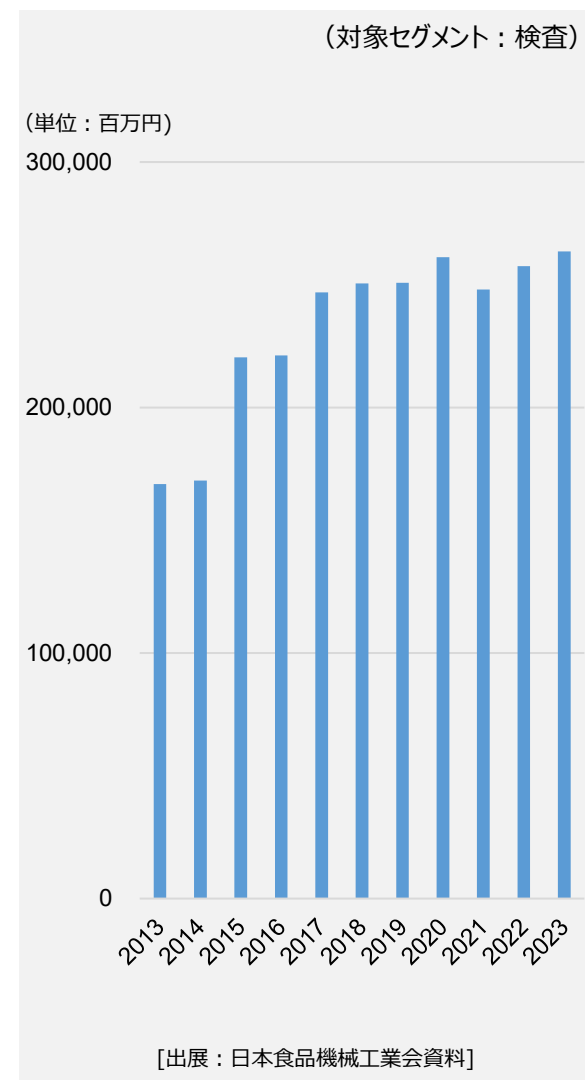
地域別粗鋼生産量及び
国内高炉大手設備投資額の推移



印刷市場規模の推移

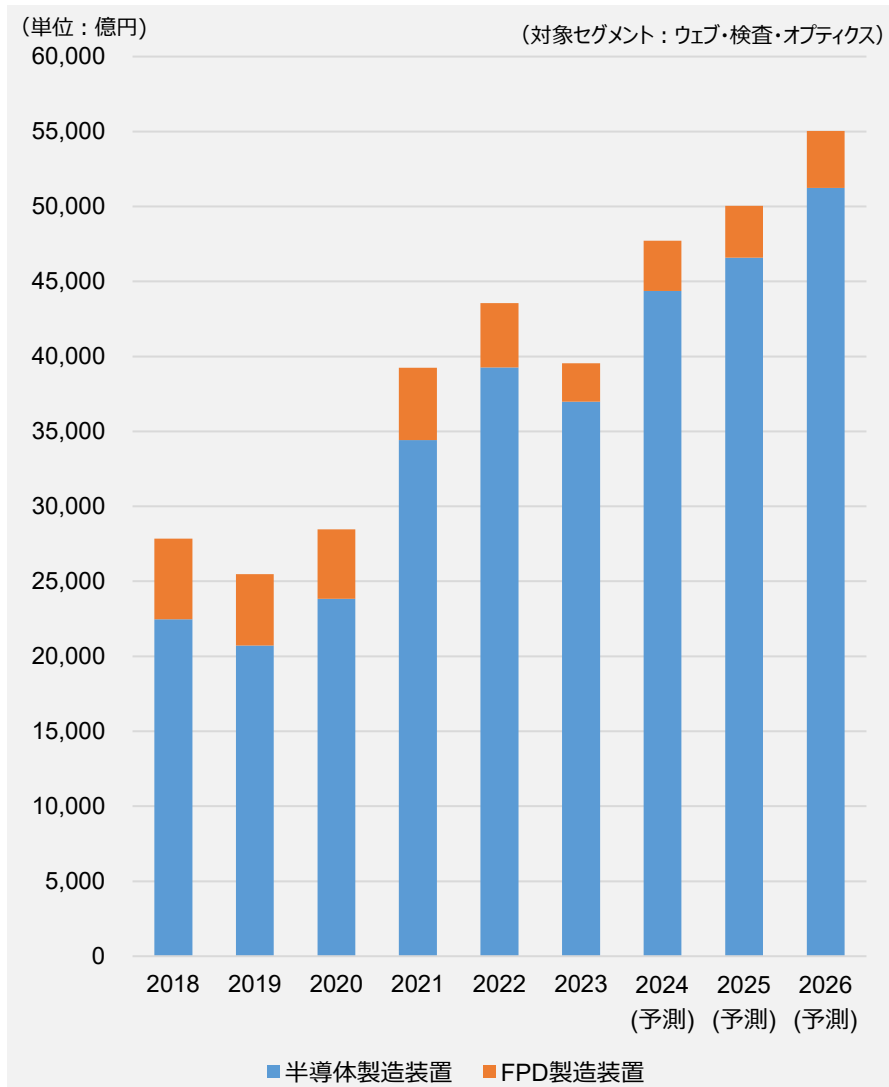


食品機械国内販売額の推移
(除、加工機械)



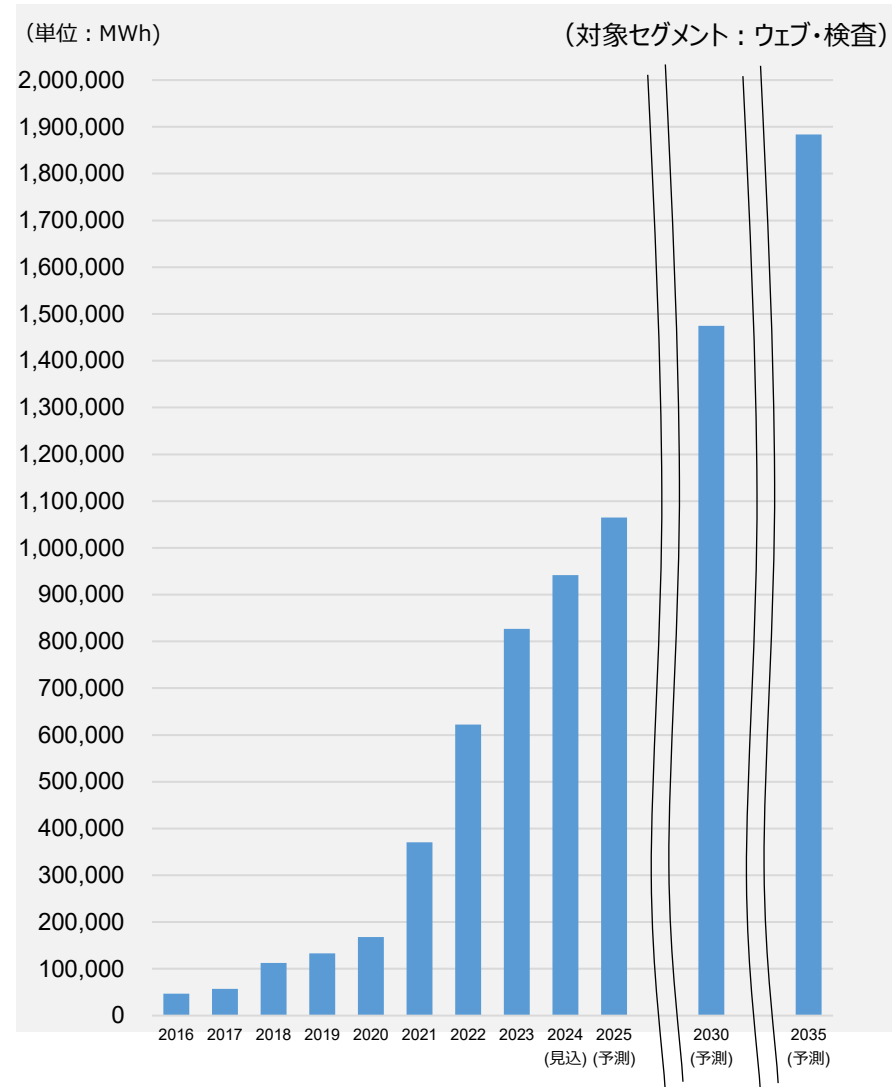
各事業市場動向

半導体・FPD製造装置需要予測



[出展：日本半導体製造装置協会]

車載用Lib世界市場予測



[出展：矢野経済研究所資料]

NIRECO